

当院外来で開催する病的賭博患者の自助グループミーティング

～参加者の感想からの考察～

○長濱千絵美¹⁾ 國井陽介¹⁾ 丹野万樹¹⁾ 時岡かおり¹⁾ 太田健介²⁾

1) 心理士 2) 医師

医療法人耕仁会 札幌太田病院

1. はじめに

病的賭博患者の回復には自助グループミーティングへの参加が有効であると言われており、全国でギャンブラーズ・アノミマス(GA)が自助グループミーティングを開催している。

今回は、当院で自助グループミーティング(以下、ミニ GA)を開催することによって、病的賭博患者の治療継続及び回復にどのような影響をおよぼすか参加者の感想から考察する。

2. 対象及び方法

期間:X年11月～X+1年9月の10カ月間、日時:土曜外来診療日 11:00～12:00、開催回数:24回、参加者:病的賭博患者。場所:当院1階オープンスペース、形式:テーマ・自由発言ミーティング、毎回満足度を5段階にて評価及び自由記述にて感想を記入してもらった。

3. 結果

参加者は男性30名、内83%が就労者であった。初診の意思決定は家族・その他から勧められた人が67%、自らが33%。初診からミニ GA に初めて参加するまでの期間が0ヶ月の人が53%であった。参加状況は、1名当たりの平均参加回数4回、1回のみ参加者は9名であった。ミニ GA 満足度は5点満点評価で平均4.6点と高い結果であった。院内でミニ GA を開催している良さとして「受診と同時に参加できる」「同じ病院に通院している人の話を聞くことができる」「ミニ GA の参加を楽しみに通院している」との感想がみられた。

心理面の感想を分類すると①依存症という病気の特徴を知る:「他の人との共通点が多くギャンブルから離れたい気持ちが強くなった」②依存症であることを認める:「やりたい気持ちが抑えられないのは病気だと思う」③断ギャンブル継続の難しさを知る:「スリップした時のそれぞれの考え方を聞くことができ参考になった」④自らの思いを正直に話せる『居場所』:「近い経験をした人たちと話せるので素の思いを話すことができる」であった。

4. 考察

67%と多数が他者から勧められて初診を受けた人であったが、ミニ GA の満足度は高く、自主的に参加している。また、病的賭博患者に就労者が多く、休日の土曜日は来院しやすく、治療とミニ GA に参加できる環境は、治療継続につながっている。

初診から0カ月の参加者が早期に依存症であることを認めることができるのは当事者同士の力であると思われる。そして、渴望感やスリップしたことも正直に話し、受容される仲間がいることが「今日1日やめる」を選択する力になっていると感じた。

参考文献:太田健介「病的賭博患者の特徴—1医療機関を受診した105例の検討から—」(2008)、田辺等:「ギャンブル依存の理解と今後の支援の在り方」(2018)